

スポーツボランティア プログラム 「みんなといっしょの 運動会」 2017/10/1



障がいのある方と一緒に大玉ころがしをしている様子

10月1日（日）、中央大学第1体育館アリーナにて、日野市等が主催する「みんなといっしょの運動会」が開催され、本学の学生10人が運営ボランティアとして参加しました。この運動会は、子どもも大人も障がいのある人もない人もスポーツを通じてみんなが参加し、一緒に楽しむこと



を目的としたイベントで、日野市内の障がい者施設の方なども多く参加されていました。皆さん、1年に1回のこの大イベントを本当に楽しみにしておられる様子が伝わってきました。

活動内容

本学の学生は、ある一つの施設の競技補助と着ぐるみ担当の2つの役割に分かれて活動しました。競技補助の担当は、参加者の方が競技を楽しむことができるようにサポートすること、そして、何より一緒に楽しむことが重要な役割です。競技種目は、大玉ころがしやパン食い競争、綱引きなど、みんながやったことがある、いわゆる運動会での全員参加型の種目ばかり。学生たちは、障がいのある方と1対1でペアになり、集合場所まで誘導したり、一緒に大玉ころがすなど、共に競技を楽しみました。着ぐるみ担当は、うさぎやライオンの着ぐるみの中に入り、応援をするなど、場を盛り上げました。障がいのある方も障がいのない子どもたちから大人気で、リズムカルな動きで楽しんでもらう工夫

をしている姿が印象的でした。

参加した学生の声

- 大会を通して、一人の選手と共に行動する形式であったため、相手のことをより深く知ることができ、話しかけやすかった。
- これまで知的障がいのある方と接する機会が少なかったため、対応が難しい場面が多かった。どこまで強制して、どこまで自由にしてもらっているのか判断が難しかった。
- 私が担当した人は大勢の人がいる場所を苦手としていたため、集団の比較的后方に座ってもらうなど工夫してみた。
- 肩や背中に触れて誘導するなど、緊張をほくしつつ競技を楽しめるよう心がけた。
- 前回活動した都大会とは異なり、市単位で行われたということもあり、ボランティアや参加団体同士の距離（関係）がとても近いと感じた。市ならではの魅力を感じることができた。
- 参加者の方たちもスタッフやボランティアの方たちも全員が一緒になって運動会をつくりあげていて、みんなが楽しんでいる雰囲気がいいたと感じた。

学生たちは、障がいのある方と共に行動する中で、どのように接したら、その方が楽しめるかを考え、工夫をしていたことが分かります。また、障がいの有無に関係なく、同じ地域に暮らしたり、通学したりしている人として一緒にスポーツを楽しむことができる、この大会の魅力を感じることができたようです。